



多文化共生 モデル地区 について

R8.7.28 国際課

事業の 背景

心理的距離

- ・日本人住民

「外国人とどう接していいか分からない」



- ・外国人住民

「地域に馴染めない」



相互不干渉

- ・同じ地域に住みながらも接点がない



つながりの場

- ・お互いを対等な隣人として認識する場が不足



これまでの取り組み

地域多文化共生推進員

実績 7地区に配置(2016～2024年) ※1地区に2人を配置(日本人市民と外国人市民)

4年間	黒野、茜部、三里
3年間	市橋、本郷 ^(1人)
2年間	鏡島、厚見 ^(1人)

分かった課題

短期滞在者(留学生・技能実習生など)

- ・生活ルールの周知地域との接点づくり

長期滞在者(永住者・定住者など)

- ・地域活動への参加促進
- ・地域への定着支援

共通課題

- ・自治会や学校に所属しない外国人へのアプローチ

今後の方向性

- ・外国人住民のニーズに応じた交流機会と地域参加の拡大

目指す姿

- ・地域とのつながりづくり
- ・地域活動への参加
- ・地域の担い手へ

これまでの取り組み 地域多文化共生推進員

日本人と外国人
のペアで任命
○

推進員の負担
が大きい △

日本人の理解は
進んだのか？

地域で取組は
継続しているの
か？

これからの展開

これまで

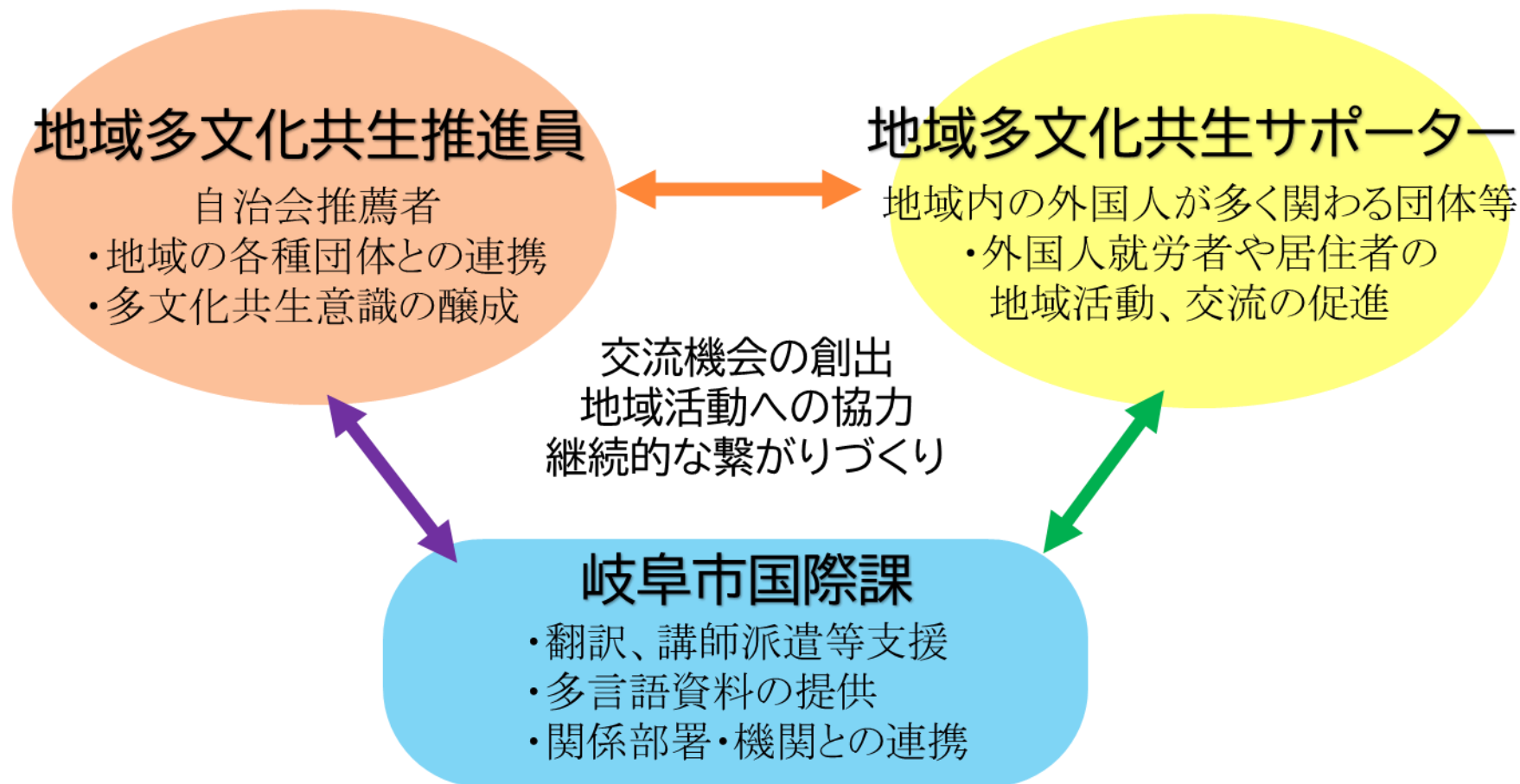
- ・ 地域多文化共生推進員を配置(2016～2024年)



これから(多文化共生モデル地区)

- ・ 自治会連合会 ⇒ 推進員
- ・ 日本語学校や企業等 ⇒ サポーター
- ・ 市(国際課) ⇒ 支援・調整

取り組みのイメージ



- 三者が連携して、地域の多文化共生を推進
- R8予算：305千円（推進員・講師の報償費等）

① 推進員の役割 (自治会連合会)

地域多文化共生推進員

自治会推薦者

- ・地域の各種団体との連携
- ・多文化共生意識の醸成

- ・日本人住民と外国人住民の交流をつなぐ
- ・外国人住民の地域活動への参加を促進
- ・多文化共生意識の向上
- ・地域課題の把握と解決
- ・選任: 1人(日本人でも外国人でも可)
- ・国際課と定期的に情報交換

👉 「地域と外国人住民をつなぐ橋渡し役」

② サポーターの役割 (日本語学校・企業・団体)

地域多文化共生サポーター

地域内の外国人が多く関わる団体等

- ・外国人就労者や居住者の
地域活動、交流の促進

- ・外国人学生や従業員へ地域活動を案内
- ・交流イベントへの参加を呼びかけ
- ・推進員や市と連携して交流機会を創出
- ・地域との継続的なつながり作りを支援
- ・選任：個人・団体どちらでも可

👉 「外国人住民と地域をつなぐ協力者」

③目標

数年かけてステップアップし、地域の担い手へ！

ゴール
地域の
担い手へ！

自治会・消防団・
ボランティアなどで
活躍

STEP
4

担い手になる

地域の一員として、
活動を支える側へ



自治会活動・消防団加入
ボランティア活動の中心に

STEP
3

参加する

地域活動に参加し、
経験を積む



防災訓練・清掃活動
地域行事への参加

STEP
2

交流・体験する

人とつながり、地域を
体験する



挨拶・交流イベント
文化紹介・地域交流会

STEP
1

知る・学ぶ

地域で安心して暮らすための
基礎を学ぶ



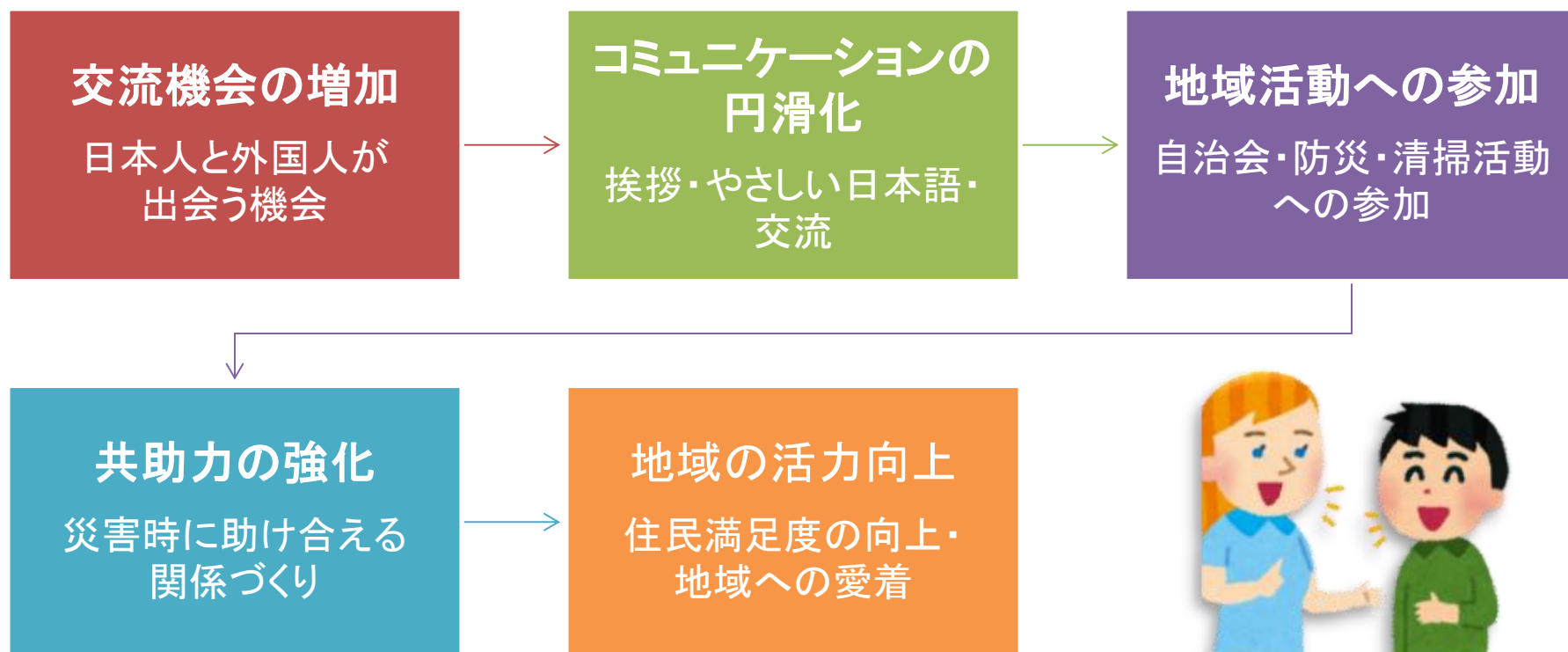
在住外国人理解・生活ルール
やさしい日本語の学習



数年かけてステップアップ！



④ 期待される効果



⑤-1 進め方のポイント

段階的に進める

- ・ 長期的な取組
- ・ ステップアップ方式

顔の見える関係をつくる

- ・ 相互理解
- ・ やさしい日本語
- ・ 地域のルールを共有

楽しみながら続ける

- ・ イベントやお祭りを活用
- ・ 継続して参加できる仕組み

地域全体へ広げる

- ・ 自治会・学校・企業の連携
- ・ 負担を分散し、交流の輪を拡大

無理なく、楽しく、地域全体で段階的に進める

⑤-2 進め方のポイント

関心の有無に応じたアプローチ

```
graph TD; A[関心の有無に応じたアプローチ] --> B[交流を求める人]; A --> C[交流を求めない人]; B --> D["・イベントや祭りへの参加<br>・やさしい日本語研修"]; C --> E["・在住外国人理解研修<br>・生活ルール研修"]
```

交流を求める人

- ・イベントや祭りへの参加
- ・やさしい日本語研修

交流を求めない人

- ・在住外国人理解研修
- ・生活ルール研修

**交流の促進だけでなく、生活支援や相互理解
の取組も実施し、地域全体へ広げる**

⑥ 候補となる地区

選定基準

- 外国人の人数と比率、地区の人口密度
- 日本語学校や企業・事業所の有無
- 国籍及び在留資格の割合



(A 留学型／B 居住型／C 就労型)

(A 留学型)

地区	人数 順位	比率 順位	主な在留資格	学校等
黒野※	1	1	留学・技能実習・永住者	岐阜大学等
市橋※	3	10	留学・技能実習・永住者	-
鏡島※	13	27	留学・永住者・技能実習	-
木之本	15	3	留学・特定技能・永住者	日本語学校
日置江	16	2	留学・技能実習・永住者	日本語学校
早田	17	21	留学・技能実習・永住者	-
徹明	19	7	留学・永住者・技人国	-
梅林	20	12	留学・特定技能・技人国	日本語学校 専門学校



※は過去に推進員を配置した地区

(B 居住型)

地区	人数 順位	比率 順位	主な在留資格
茜部※	2	4	永住者等
三里※	4	9	永住者等
鶉	5	15	永住者等
厚見※	6	13	永住者等
島	14	30	永住者・定住者
本郷※	17	6	永住者・定住者
明德	33	5	永住者・留学

(C 就労型)

地区	人数 順位	比率 順位	主な在留資格
長森西	7	8	特定技能
柳津	8	22	技能実習
三輪南	9	11	技能実習
長森南	10	26	特定技能
本荘	11	18	技能実習
七郷	12	20	技能実習

⑦ 協力依頼

対象	主なニーズ	協力によるメリット
自治会	治安の向上、防災力の強化 地域の活性化	安全で活力ある地域づくり
企業・事業所	外国人材の定着、地域貢献	離職防止、企業価値の向上
学校	学習環境の充実、地域貢献	安心して学べる環境づくり
外国人住民	仕事・キャリア支援、言語支援	生活や就労の不安を軽減

**それぞれのニーズに応じて、
事業に協力するメリットを伝える**

⑧ スケジュール

7-8月	候補地区選定、協力依頼
------	-------------

9-11月	推進員選任、活動計画作成 情報交換会①
-------	------------------------

12-1月	研修・講座の開催
-------	----------

2-3月	情報交換会② 課題整理
------	----------------

多文化共生モデル地区

まとめ

めざす姿

地域みんなが「住民」としてつながる

- ✓ 地域への愛着が生まれる
- ✓ 地域活動への参加が広がる
- ✓ 災害時に助け合える

最終目標

「誰もが地域の一員として活躍し、支え合えるまちづくり」

多文化共生が生み出すもの

-  地域の活力向上
-  住民同士のつながり
-  災害時の共助力向上